

ピュアニスト

石原可奈子の

大人のやさしいピアノ

DVD講座



石原可奈子 著

みらなび 



## 第 1 曲

い え じ

# 家 路

### ～「新世界より」第2楽章～

「家路」として知られるこの曲は、  
ドヴォルザーク作曲「新世界より」  
の第2楽章のメロディーです。  
学校の下校時間やCMなどで、  
一度はきっとお聴きになったこと  
があるかと思います。  
懐かしい気持ちを込めて演奏でき  
たら素敵ですね。



# ピアノの前に座ってみましょう

## ✦ ピアノを弾くための姿勢

ピアノに向き合い、椅子に座ります。  
そして、鍵盤けんばんの上に指を置いてみましょう。

肩や腕、背中など、窮屈なところはありませんか？  
力むことなく、ピアノが弾けそうでしょうか。

ピアノを弾くための「良い姿勢」は、無理なく、疲れにくい姿勢だと思います。  
体格などの違いにより、人それぞれですが、チェックポイントをいくつか挙げてみます。

椅子には、浅すぎず、深すぎず座りましょう（浅すぎてグラグラしたり、背もたれのある椅子ではもたれかかったりしない位）

ひじが胴体より後ろにきたり、伸びきったりしないよう（適度に曲がる位）、ピアノと椅子の間隔を調整しましょう。



リラックスして、優しく楽しい気持ちでピアノに向かいましょう！

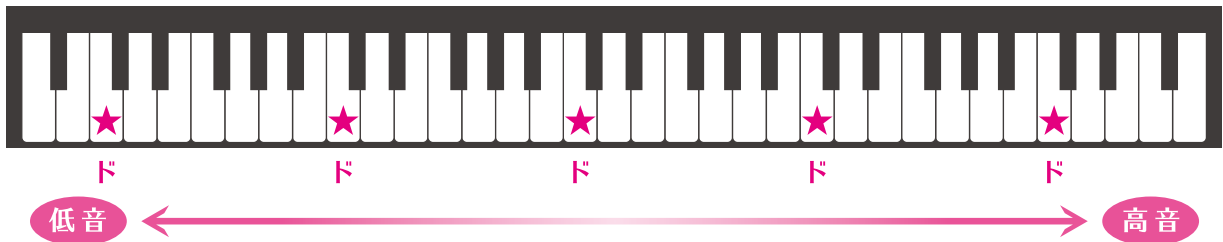
## ✦ ピアノの鍵盤数

ピアノの前に座って、鍵盤全体を眺めてみましょう。

**白鍵** (白い鍵盤) が52個、**黒鍵** (黒い鍵盤) が36個、合計で**88個**の鍵盤があります。

オーケストラの音域 (音の幅広さ) をほぼこなせるほどの鍵盤数で、ピアノ曲でも沢山の音が使われていますが、私のレッスン曲では、それほど多くの音域は使いません。

ですので、鍵盤が少なめ (61鍵、76鍵など) の電子ピアノでも対応できます。



鍵盤が左に行くほど音が低くなり、右に行くほど音が高くなります。

実際に触れて、響きを楽しんでみましょう。

## ✦ ピアノの鍵盤と音の名前

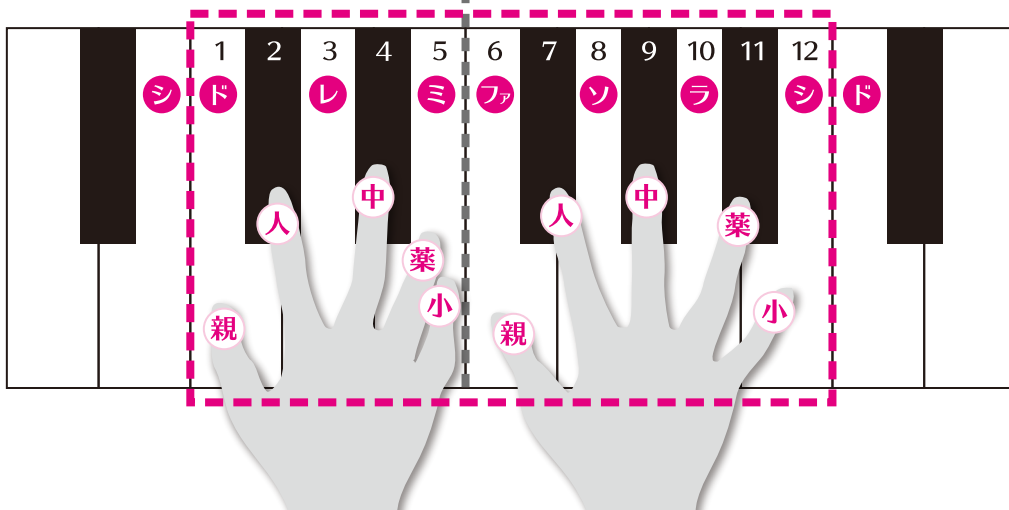
ピアノの鍵盤を見ますと、黒鍵が2つ集まっているところと、3つ集まっているところがあります。

### 黒鍵が2つ集まっているところ

左側に人差し指、右側に中指を置きます (右手)。  
自然に親指が置かれる白鍵のところが「**ド**」です。

### 黒鍵が3つ集まっているところ

左側に人差し指、真ん中に中指、右側に小指を置きます (右手)。  
自然に親指が置かれる白鍵のところが「**ファ**」です。



この、白鍵が7個、黒鍵が5個のかたまり (1オクターブといいます) の連続でできています。

ページの上のピアノの絵をご覧ください。★マークのところが「**ド**」です。

88個の鍵盤の中に、沢山の「ドレミファソラシド」があることがご覧頂けます。

# ピアノを弾いてみましょう



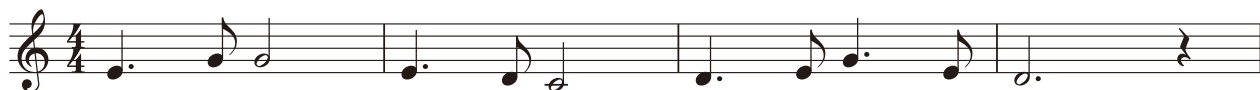
## ✦ 「家路」(「新世界より」第2楽章)を歌ってみましょう

小学校の下校時間やCMなど、きっとどこかで耳にされたことがあるかと思います。  
まずは、「<sup>ラ</sup>La~<sup>ラ</sup>La<sup>ラ</sup>La~♪」で、そして次は「ミ~ソソ~♪」とドレミの音階で歌ってみましょう。

### 家路 (「新世界より」第2楽章)

作曲：アントニン・ドヴォルザーク

編曲：石原可奈子



ミ - ソソ - ミ - レド - レ - ミソ - ミレ -

La - LaLa - La - LaLa - La - LaLa - La La -



ミ - ソソ - ミ - レド - レ ミ レド ド -

La - LaLa - La - LaLa - La La La - La La -

なんだか懐かしく、あたたかな気持ちになる、素敵な曲ですね。  
これから演奏していく時にも、曲に心を込めることをぜひ忘れずにいてください。

## ✦ 指1本でピアノを弾いてみましょう

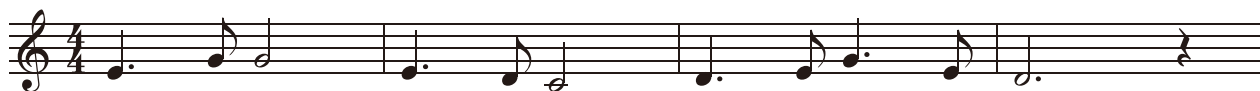
それでは、いよいよピアノを弾いてみましょう。

まずは、右手のどの指でも、好きな指を1本出して、その1本の指を移動させることで弾いてみます。使う鍵盤は、「ドレミ ソ」の4個です（ファは今回使いません）。

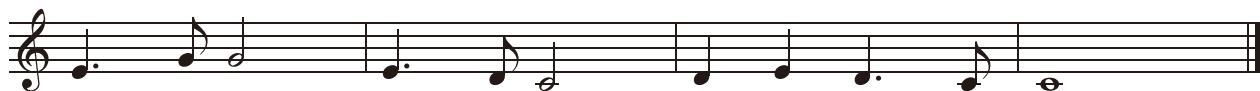
先ほどのように、歌いながら弾いてみましょう。



「ミ」の音から  
スタートします。



ミ - ソソ - ミ - レド - レ - ミソ - ミレ -



ミ - ソソ - ミ - レド - レ - ミレドド -

いかがでしょうか。少し難しく感じたでしょうか？ 歌うように弾けたでしょうか？

ここでは、多少のリズムの違いや、音のミスなどは、あまり気になさらないでください。

まずは、弾いてみることで、ピアノに親しんで頂くことが大事だと思っています。